



## 2011年2月 第9巻第2号

### かく語りき—聖人の言葉

「神はすべての人の中にいらっしゃるが、すべての人が神の中にいるわけではない。だから我々は苦しむのだ。」

(シュリー・ラーマクリシュナ)

「汝は絶対の自己、無限の存在、遍満する永久不変の純粹意識である。汝の性質は至福で、汝の栄光には一点の曇りもない。誕生と死の鎖に縛りつけられているのは、自らを低い自己だと考えているからだ。それが、汝の束縛の唯一の理由である。」

(シャンカラチャーリヤ)

### 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・1月の逗子例会

ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

・『ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィーの教え方』

スワミー・メダサーナンダによる講話（午前の部）と Q&A（午後の部）

- ・今月の思想
- ・忘れられない物語
- ・スワミー・メダサーナンダ、上智大学で講話

### 今月の予定

・生誕日・

スワミー・ブラマーナンダ 2月5日（土）

スワミー・トリグナティターナンダ 2月7日（月）

スワミー・アドブターナンダ 2月11日（金）

シュリー・ラーマクリシュナ 3月6日（日）

・行事・

### 3月の逗子例会

第176回シュリー・ラーマクリシュ  
ナ・デーヴァ生誕記念祝賀会

3月20日（日）

6:00 マンガラ・アラティ（朝の礼  
拝）

6:30 聖句朗唱、瞑想

10:30 プージャ、供物、護摩、花  
の奉獻

13:00 昼食（プラサード）

14:30 聖句朗唱、聖典輪読、スワ  
ーミー・メダサーナンダによる講話

15:00 音楽プログラム

関口祐一氏（サロード）、  
ディネシュ・ドヨンディ氏（タブラ）

17:00 お茶

18:30 夕拝、賛歌

ご家族やご友人をお誘い合わせ  
の上、どうぞご参加ください。  
心よりお待ちしております。

### 2011年1月逗子例会

#### ホーリー・マザー シュリー・ サーラダー・デーヴィー生誕祝 賀会

1月16日、日本ヴェーダーンタ  
協会の逗子例会で、ホーリー・マザ  
ー シュリー・サーラダー・デーヴ

イーの生誕祝賀会を行いました。午  
前6時、祝賀会はマンガラ・アラテ  
ィ、聖句の朗唱、バジヤンで始まり、  
6時半から7時半まで瞑想した後、  
朝食をいただきました。朝食は主に、  
前夜にアシュラムやホーリー・マザ  
ー・ハウス（女性と子供のための宿  
泊施設）に泊まった信者の方々が取  
られました。その後、花、果物、焼  
き菓子や礼拝の道具が準備されま  
した。

午前11時、スワーミー・メダサ  
ーナンダがアラティを執り行い、参  
加者全員で献花（プシュパンジャ  
リ）を行いました。皆が席に戻ると、  
スワーミーの先導でヴェーダの平  
和のマントラを唱え、続いてホーリ  
ー・マザーの霊的メッセージのいく  
つかを英語と日本語で輪読しまし  
た。そして、スワーミーが『ホーリ  
ー・マザーの教え方』というテーマ  
で英語の講話を行い、佐々木陽子氏  
が通訳をされました。その後、昼食  
のプラサードをいただきました。

午後の部では、ホーリー・マザー  
のメッセージをさらに輪読した後、  
スワーミー・メダサーナンダがホー  
リー・マザーの素晴らしい霊的資質  
について逸話をあげながら説明し  
ました。ホーリー・マザーは霊的指  
導者、教師として優れた資質を備え

ていながらも、あまり知られていない点が多いです。そして、サムドラ・ダッタ・グプタさんが豊かなバリトンで賛歌を一曲歌われ、ロニー・ハーシュさんがオリジナルの賛歌（英語）を数曲歌われました。その中には、70年代のHollywood Men's Choirからの曲でラビンドラ・ダunks作詞の『Lord, Lord, Lord（主よ、主よ、主よ）』もありました。

午後4時半に茶菓が振る舞われ、午後6時15分から夕拝を行いました。

### 2011年1月返子例会

### ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

る講話（午前の部）とQ&A（午後の部）



『ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィーの教え方』

スワーミー・メダサーナンダによ





## なぜ「ホーリー (holly、神聖な)」マザーなのか

ホーリー・マザーの生誕祝賀会にようこそおいで下さいました。サーラダー・デーヴィーは、サーラダー・デーヴィーとかマザー・サーラダー・デーヴィーと呼ばれるだけではなく、ホーリー・マザー、あるいは聖母と呼ばれていますが、なぜだろうと不思議に思う方がいるかもしれません。ホーリー・マザーと呼ぶのは単なる敬意の表れなのでしょうか、それとも相応の理由があるからなのでしょうか。

サーラダーという名は「命の本質で不可欠なものを与える者」という意味です。インドでは、年配の女性を「mother (お母さん)」と呼ぶ伝統があります。では、サーラダー・デーヴィーをお母さんと呼ぶのは、単に彼女がシュリー・ラーマクリシ

ユナの妻だったからなのでしょう。彼女には特別な点などないと思いついて入っている人は、うっかりするとその高い霊性に気付かないこともあるでしょう。実際に、シュリー・ラーマクリシユナの妻だから信者らが敬意を払ってそのように呼んでいるのだと思っていた人もいました。しかし本当は、彼女自身が偉大な女性の聖人であり、自らの持つ霊性の高さから敬意を払われるべきなのです。

神聖であるとは純粹であることであり、聖なる人とは肉欲から生じる行為や考えにとらわれない人を言います。しかしこれにはもっと深い意味がます。純粹さとは欲、高慢、妬み、妄想などの諸悪がない状態を指すのです。ホーリー・マザーは生まれつきこのような悪(あく)を全く持ち合わせていませんでした。

一般に聖人は、非常な努力をして霊的实践を重ねた後、神聖さを手に入れるものです。しかし、ホーリー・マザーの場合は、自らが純粹だっただけでなく他者にも純粹さを分け与えることができたのです。ホーリー・マザーはまさに純粹さの化身でした。スワミー・ヴィヴェーカーナンダが非常に霊性の高い純粹な人であったのはよく知られて

いますが、スワミジーはホーリー・マザーに会いに行く時にはガンガーの水を何度も飲んだものでした。誰かにその理由を聞かれるとスワミジーは、自分の中に少しでも不純なものがあったらとてもマザーには会えないので、ガンガーの水で自分を完全に浄めたいのだと答えたのです。

### なぜ「神なる (divine)」母なのか。

この話からマザーの神聖さが分かると思いますが、時にマザーは「神なる母」と呼ばれることがあります。これはなぜか、よく考えてみましょう。神は宇宙を創造され非常に多くの人たちの信仰を受けているわけですが、神は利己的な理由やうぬぼれからこのような業をなされたのでしょうか。また、イエス・キリストは何世紀にもわたり何十億もの人々から敬愛されることで、利己的になるのでしょうか。もちろんそうではありません。だからこそ、神は神であり、イエスは神人なのです。ホーリー・マザーは信者から礼拝されていましたが、それでもいつも変わることなく穏やかで落ち着いた、静かな存在でした。たった今

信者から礼拝を受けたかと思うと、次の瞬間には台所に走って行って信者のために料理をしてやり、食事が終わると食器を洗って後片付けをやるという具合でした。

ある信者は、ホーリー・マザーの神性を最もよく示している点は、どれほど多くの人に礼拝されようとも全く利己心がないことだと言いました。マザーの信者には著名な学者や政府の高官、偉業や財をなした人々などもいました。ですから、このように利己心がないことからマザーを「神なる母」と呼ぶのです。

さらに、普通の人に他者を変えることができるのでしょうか。聖人は他者の苦しみを引き受けることができるのでしょうか。そんなことはありません。一方、ホーリー・マザーの生涯を見ると、マザーがどれほど多くの信者を変え、その苦しみを引き受けてやったのかが分かります。ブラマーナンダジやプレマーナンダジのような霊性の巨人らが霊的に受け入れることのできない程、不純で好ましからざるサムスカーラを持っている人でさえも、マザーは受け入れ、変えてしまったのです。ホーリー・マザーの神なる力をこれ以上物語る例があるのでしょうか。人や動物、男女の区別なくすべてを等

しく愛せる人とはいるのでしょうか。人道主義者や権利擁護団体のメンバー、あるいは普通の賢人にはそのようなことはできないでしょう。神や神人だけができることです。ホーリー・マザーの生涯では、マザーが万物を等しく愛したことが示されています。

また、マザーの靈性の高さや深さを私たちに計り知ることはできません。ダイヤモンドの真の価値はダイヤモンド商だけに分かるのと同じく、ヴィヴェーカーナンダジやブラマーナンダジ、トゥリヤーナンダジ、サラダーナンダジのような偉大な聖人らだけがマザーの真の偉大さに気付くことができるのです。私たちには、彼らの言葉からマザーの偉大さが分かるだけなのです。

スワミー・トゥリヤーナンダジは、マザーが靈的にどれほど高いかをチャクラを例に挙げて説明したことがあります。タントラ派の考えでは、肉体には、ムーラーダーラ、スワーディシュターナ、マニプーラ、アナーハタ、ヴィシュッダ、アージュナー、サハスラーラという7つのチャクラがあります。喉にある5番目のチャクラがヴィシュッダで、7番目のチャクラ サハスラーラには絶対の実在が座しています。通

常、胸にあるアナーハタ・チャクラのところに達するだけでも、心の大いなる努力と力が必要です。トゥリヤーナンダジは、僧は非常な努力をしてヴィシュッダまで達するが、ホーリー・マザーは信者に言葉をかけ信者に仕えるために、サハスラーラからアージュナーまで、さらにヴィシュッダへと降りてくるのだと言いました。聖人は意識を上げる努力をしますが、マザーは意識を下げる努力をします。意識を下げる努力をしないと、マザーはサハスラーラで絶対の存在と一体化した状態にあり続けたのです。これは、最も高い靈性を持つ人にしか分からない状態で、高僧の中には、マザーに近づいただけでその高い靈性に気付いて震えだしたり恍惚状態に入ったりする者がいました。このような理由から、マザーは神なる母と呼ばれるのです。

最後に、肉体を離れた後普通の聖人は再び現れて信者を導くことはできません。しかし、イエスやクリシュナなど神人、神の化身と呼ばれる人々の生涯を見ると、肉体を離れた後も再び姿を現したことがあったのが分かります。ホーリー・マザーの場合も、非常に困難な状況や真摯な祈りに答えて姿を現したこと

があると証言した信者が数多くいます。マザーは実際にこのように言っていました。「我が子よ、困難に遭ったらあなたにはマザーがいるということをいつも思い出さない。私はあなたと共にいて、あなたの問題を片付けてあげましょう。」人類への何と偉大な約束でしょう！

## 母である神

マザーの神聖さ、利己心のなさ、他者を変える力、すべてを等しく愛する気持ち、高い霊性、姿を現して霊的導きを与えることなどを考え合わせれば、シュリー・サーラダー・デーヴィーがホーリー・マザーと呼ばれるだけでなく神なる母と呼ばれる理由が分かります。

## 影響力と人気



近年、ホーリー・マザーは世界中

でシュリー・ラーマクリシュナよりも大きな影響力を持つようになってきているようです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは以前、冗談で「私の父はいつも私の母の言うことに従わねばならない」と言ったことがありました。シュリー・ラーマクリシュナは、ホーリー・マザーの力を通じて自分は人類を教え導くのだと言っていました。マザーが西洋で人気がある理由の一つに、神が常に父と見なされるのはなぜかというフェミニストの指摘があります。これは確かにその通りだと言えます。神が母であってもいいのではないのでしょうか。

もちろん、最終的に神は性別を超越しているわけですが、私たちが神と人間的な関係を求める時に父との関係を求めるのはなぜでしょうか。実際には、父親より母親といる時の方がリラックスしていられるし、自由にしてもらえることが多いのではないのでしょうか。日本では「地震、雷、火事、親父」と言うように、父親は畏れるべき存在です。キリスト教では他のセム語の伝統と同じく、神は父であると見なされていますので、母なる神という見方はヒンドゥイズムによって西洋に初めて取り入れられたことになり

ます。この思想は理にかなった自然な考え方であるため、西洋では非常によく受け入れられています。

私がマザーについてこのように説明しているのは、マザーの素晴らしさに触れることで皆さんにマザーに興味を持っていただきたいからです。マザーについてもっと知り、マザーの言葉を受け入れ、マザーに帰依したならば、皆さんの願いはきっと叶えられるでしょう。すべては皆さん次第です。

## マザーの教え方

シュリー・ラーマクリシュナと違って、ホーリー・マザーは信者に対して霊的な話題を出すことは決してありませんでした。『シュリー・ラーマクリシュナの福音』の中で、シュリー・ラーマクリシュナは聖典から例を挙げながら霊的な話を自分から始めていますが、マザーはそのようなことをしませんでしたし、する必要もなかったのです。マザーの生き方そのものがメッセージだったからです。生涯の一瞬一瞬が霊性の教えを授けるチャンスでしたし、分かる人にはメッセージが伝わっていたのです。霊的な生活の中で最も重要な要素である霊性そのもの

のを、マザーは信者に分け与えていたのです。バラのつぼみは美しい露と共に開きます。マザーは信者にそっと霊性を授け、彼らを変えたのです。もちろん、信者が具体的な霊的問題を抱えてマザーの下にやっ来てれば、マザーはいつも答えを与えてやりましたが、それは短くシンプルで深いものでした。

ある僧がマザーにこう尋ねたことがあります。「お母さん、自分の心をコントロールするのがとても難しいことがあります。特に体調が悪くなると、心はあつという間に肉体へと向かいます。どうしたら心が神から離れないようにできるのでしょうか。」マザーは答えました。

「我が子よ、心を二つに分けなさい。意識のある賢い方の心に、気まぐれな悪い方の心をコントロールさせるのです。」これは実に実践的な教えです。

別の折に、マザーはこう言いました。「すべてを等しく愛しなさい。」これを聞いてある少女が尋ねました。「お母さん、どうしたらすべてを等しく愛することができるのですか。」これに対するマザーの答えは、誰にとっても役に立つ言葉でした。「我が子よ、人に何も求めてはいけません。何も期待してはいけま



せん。それだけで、すべての人を等しく愛することができるようになります。」誰かに何かを求めそれが満たされると、嬉しい反面、相手に義理を感じるようになります。一方、拒絶されれば怒りやいらだちを感じるでしょう。そうなれば誰をも等しく愛することはできなくなります。

マザーの残した最後のメッセージは内なる平和を得ることについてでした。マザーはこう言いました。「娘よ、平安を求めるなら、人の欠点を見てはいけません。自分の欠点を探しなさい。誰一人として他人はいません。すべての人はあなたであり、あなたのものなのですよ。」ここで大切なのは、人の欠点を見つけるという態度です。「私はあの人たちとは違う。私には私の仲間がいて、あの人たちは仲間じゃない。」自分と人を分け隔てて考えること、利己的に考えることが人を不幸にするのです。「あの方は私の身内ではない。」「あの方は私と違って関西出身だ。」「あの方はアメリカ人だし、私は日本人だ。」「私はアメリカ人で、彼はインド人だ。」

私は海外へ行く機会がありますが、空港の入国管理を通過する時「外国人 (foreigners)」と書いた

案内板を目にします。一方、場所によっては「来訪者 (visitors)」と書いてある場合もあります。「外国人」と書いてある列に並ぶと、自分はこの人たちとは違うのだと感じ、同じ列に並んでいる人たちとさえも違うのだと感じることがあります。自分はよそ者、外国人だと扱われるのだと考えます。しかし、「来訪者」という文字を目にすると、案内板を通して当局が言わんとすることは同じであっても、自分は歓迎されていると感じます。二つの言葉が違った印象を与えるのです。心が違いへと向かうことが、心の平安がなくなる根本的原因なのです。

私は日本にいて、協会を訪ねてくる方や信者の皆さんを外国人だとは思いません。そして、私も外国人だと思われたくありません。このような障壁を築いたのは神ではなく、私たちの心です。幾重にも壁をめぐらして心を狭くし、平安をなくしているのです。だからこそ、私たちはマザーの素晴らしいメッセージを心に留めておかねばなりません。「誰一人として他人はいない。誰もが私自身であり、私の身内なのだ」と考えるのです。考えれば考えるほど、シンプルで深い言葉です。このようにマザーの教え方は、言葉に出

さずそっと伝えるやり方で、言葉に出した時も、短く射て深みのあるものでした。

(午前の部終了)

## 午後の部 質疑応答

Q「ホーリー・マザーの前世について、マザー自身やシュリー・ラーマクリシュナが何かおっしゃっていたことはありますか。」

A「何かの折にホーリー・マザーは、はっきりとではなく何気なくですが、前世でラーマの妻シーターや、ヒマラヤ王の娘ドゥルガーだったと言っていました。」

Q「私の読んでいる本に、シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーを霊的配偶者、シャクティと見なしていたと書いてあります。」

A「そうです、その点について言えば、カーリーがホーリー・マザーでシヴァがシュリー・ラーマクリシュナです。マハーマーヤーがこの宇宙を創造し、維持し、破壊します。マハーマーヤーが人々を縛りつけ、また解放します。これがマハーマーヤーの働きと性質であり、この点から見れば、シュリー・ラーマクリシュナはブラフマンであり、ホーリー・マザーはマハーマーヤー、プラ

クリティ、シャクティ、すなわち根本エネルギーです。」

Q「ホーリー・マザーが結婚した目的は何だったのでしょうか。」

A「これにはいくつかの意味があります。まず、シュリー・ラーマクリシュナはヴェーダーンタを実践し正式に僧となっていたわけですが、外面的には家住者のままでした。家住者は伝統や日常のしきたりを守らねばならず、その一つが結婚です。そのためシュリー・ラーマクリシュナもサーラダー・デーヴィーを妻に娶りました。二つ目に、家住者として生活しながら霊的生活を送ることが可能であることを示すため、手本として結婚が行われたのです。

家住者は、家庭を持たない僧や尼は、家住者の生活に起こる問題とは縁がないのだから放棄を語るのとは簡単だと言うかもしれません。世俗の問題と向き合いながら同時に神を求める難しさを家住者は知っています。これに対しホーリー・マザーは、家住者として日々その責任を果たし問題を解決しながらでも神を求めることは可能だという例を示したのです。

家住の信者の方とお話しして、私は皆さんの大変さを耳にします。家族や子供の世話をしたり仕事に通

いながらでは、神に祈ったりジャパムをしたりする余裕はとてもないしそんな気にもならないと。これはよくある問題と言えます。しかし、マザーの生涯を見ると、親類の起こす様々な問題に巻き込まれながらも、マザーは心の平安や落ち着き、静けさを常に保っていました。神を求め、神に祈り、ジャパムを実践していたのです。シュリー・ラーマクリシュナの伝記を執筆したスワミー・サラダーナンダジは何年間もマザーのお世話をしていましたが、こんな話をしたことがあります。何十年も僧として暮らしてきても、自分の気に入らないことが起きるといらだったり怒りを覚えたりするものだが、ホーリー・マザーはあのような環境の中でもいつも穏やかで落ち着いて平安の心持ちであった、と。マザーは、親類の中で問題ばかり起こす者についても不満を漏らさず、同じように愛し仕えました。手に余るほどの難しい性質であった姪のラードゥに対してと同様でした。マザーは、その気になればラードゥへの「執着」をいつでも断ち切ることができると言っていました。ここが、執着の対象から離れることのできない普通の人々とマザーとの違いです。マザーはよくこ

う言っていました。『見た目には執着していても、心の内では完全に離れているのが理想です。』

マザーは、結婚することでこのような手本を信者に示したのです。マザーが様々な問題と向き合いながらも平安に満ち穏やかでいるのを見て学ぶことで、信者は自らの問題に対処して頑張っていこうと励まされたのです。」

Q「私は家住者として生活しながら霊的生活を送ろうとしたのですが、その結果家住の生活に問題が出てきました。これはよくあることなのでしょうか。」

A「霊的生活と家住者としての世俗的生活には矛盾はなく、折り合いをつけバランスを取ってやることが出来ます。もしうまくバランスがとれないのであれば、霊性の実践において何か間違っただけだと思えます。ですから、深く内省して何が違っていたのかを見つけるか、経験を積んだ霊的な師に相談して、間違いを見つけそれを正してもらう必要があります。」

仕事と霊的実践のバランスをうまく取るには、現実的に行うことが大切です。例えば、霊的なゴールに早く到達しようとして、丸一日仕事

をしながら夜長時間ジャパムや瞑想を行うのはよいとは言えません。そんなことをしては、靈的ゴールに達せられないまま健康を損ねるだけです。肉体や能力には限界があるということを忘れず、厳しい靈的修行で心や体に問題が生じないようにしなければなりません。」

### ホーリー・マザーの物語

ホーリー・マザーにまつわる話はたくさんあります。これらの実話の中には、マザーには人の心を読む能力（サンスクリットで Antaryamitra）があったのを示すものがあります。これは、単なる読心術ではなくそれ以上のもので、偉大な靈的指導者の特徴の一つとされています。名声やお金を得るために心を読むのではなく、他者を助けることがその目的です。

昔、ある若者がホーリー・マザーについて知りたいからとやって来ました。若者は、マザーに会ってイニシエーションを受け、靈的な指導を受けたがっていました。彼はコロクタからマザーの出身地であるジャイランバティの村に行きました。当時は今のような便利な通信手段がなかったため、そのような旅は大

変危険でしたが、それでも彼は村を訪ねました。やっとマザーの姿を見た時、若者は大変落胆しました。ホーリー・マザーは優雅で美しい外見だと想像していたのに、実際に会ったマザーは色黒で見栄えのしない年老いた姿だったからです。するとマザーは話し始めました。「我が子よ、私も以前は美しかったのですよ。でも、靈的修行を重ねて、ある時、朝から日没まで3日間火に囲まれているという修行をやったのです。その時から色黒になってしまったのですよ。」この言葉を聞いて、若者は大変恥じて、マザーに何度も謝りました。

また、東ベンガルからある信者がやって来た時のことです。東ベンガルでは米をたくさん盛りつける習慣でしたが、西ベンガルでは少なく盛るのが普通でした。その信者がお昼に米をよそわれた時、ずいぶん少ないと感じながらも黙っていました。その途端、配膳をしている人にホーリー・マザーが、その男性にもっとお米をよそってあげなさいと言ったのです。彼は、自分の考えていることがマザーには分かったのだと気付きました。

ホーリー・マザーは、村にいるごく普通の未亡人という外見でした。

ある時、訪ねてきた女性がゴーラブ・マーをマザーだと勘違いしたことがありました。ゴーラブ・マーは人目を引く、貴族的な物腰の女性でした。ホーリー・マザーはこの一件を大いに楽しんだのですが、ゴーラブ・マーはその女性を、マザーの顔にある神性が分からないのかとたしなめました。聖書に「見る目のあるものは見、聞く耳のあるものは聞きなさい」とあるように、マザーにしかない神なる特徴は分かる人にしか分からなかったのです。

またある時、数人の訪問者がホーリー・マザーに会いにジャイランバティへと向かう途中で、インドのあるお菓子のことを話し合っていました。マザーの所に着いてそのお菓子が出てきたら嬉しいねと皆で言っていたのですが、もちろんマザーにそんな話をするのはやめようとも言っていました。ところが、彼らがジャイランバティに到着して昼食を勧められた時、何と最初に出された食べ物が彼らの話していたそのお菓子だったのです。

また別の折に、数人の信者が、マザーに特別な力があるということが確信できたらマザーからイニシエーションを受けようと内輪で話をしていました。信者の中には変わ

った考えを持つ人もいるのです。彼らがジャイランバティへ向かっている時、ふと、マザーに蓮の花を捧げたいという考えが浮かびました。村の近くまで来ると、美しい蓮の花が咲き乱れる静かな池がありました。池の中で服を泥で汚さないままだうやって花を摘もうかと考えていると、おばあさんがやって来ました。この蓮の花をホーリー・マザーに捧げたいという信者の気持ちを聞くとおばあさんは、自分は土地の者だから代わりにお花を摘んであげましょと申し出ました。信者らは喜び、お礼をしたいと言いましたが、おばあさんは受け取ろうとしませんでした。やがて信者らはマザーの所に着き、望み通りマザーに蓮の花を捧げました。後で彼らが散歩に出て池のあった場所に来ると、そこには池がありませんでした。彼らは道に迷ったのだと思い、数人の村人に尋ねましたが、この辺に蓮の池があるなんて全く知らないという答えが返ってきました。この時彼らは、これがマザーの特別な力の表れなのだという確信を得たのです。

ホーリー・マザーの生涯を振り返るとこのような逸話は他にもたくさんあります。しかし重要なのは、マザーはこのような奇跡的な力を

全く重視しておらず、自分にそういう力があるとかそういうことができるのだとか一切口にしなかったことです。そして信者には、大切なのは純粹で清らかな性質を養い、神に献身するだと語っていたのです。

## 今月の思想

人を見ていられちを覚える所があれば、それは自身への理解を深めるきっかけである。

(カール・ユング)

## 忘れられない物語

### 幸福

「どうかお願いですから私を助けて下さい。もう気が狂いそうです。」弟子の村人が言った。「たった一部屋に、私と妻と子供たち、そして義理の両親や兄弟たちが住んでいます。皆いらいらして、互いに怒鳴り合っています。地獄のようだ。」

「私の言うことを聞くと約束するかね。」師は厳かな様子で言った。

「はい、何でもすると誓います。」

「大変よろしい。では、お前は動物を何匹飼っているか。」

「牛と山羊が一頭ずつ、あと鶏が

六羽です。」弟子は答えた。

「その動物をすべてお前の部屋の中に入れて一緒に住みなさい。そして一週間後にまた来なさい。」と師は言った。

弟子はびっくりしたが、約束をした手前従うしかなかった。家に戻り動物をすべて部屋に入れた。さて一週間後、弟子は惨めな姿で師に会いに来て、こう嘆いた。「師よ、ひどい汚れと臭いで私はもうノイローゼです。家族全員、発狂寸前です！」

師は言った。「家に戻って、動物を全部外に出しなさい。」

弟子は家に飛んで帰った。次の日、目を輝かせながら師のところに戻ってきた。「人生は何と素晴らしいのでしょうか！動物を外に出しました。我が家は楽園のようです。静かできれいで広々としています！」

(Anthony de Mello 神父)

## スワミー・メダサーナンダ、 上智大学で講話

### ヴェリヤト神父とスワミー・ メダサーナンダ 寄稿

2011年1月20日、東京・上智大学でスワミー・メダサーナンダはインドの文化と特徴について講話を行いました。スワミーは、同

大学教授シリル・ヴェリヤト神父のインド神秘主義に関する講義に招かれました。神父はインドのご出身でイエズス会に属され、数年にわたり Jesuit Assistancy of East Asia and Oceania を代表して諸宗教の対話活動に従事されています。

ヴェリヤト神父は日本ヴェーダータ協会の敬愛する親しい友人であり、長年にわたり協会の組織委員会の委員を務められています。日本語が大変お上手なので、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会や昨年の協会創立 50 周年記念祝賀行事など、これまで様々な機会にゲストスピーカーの日英／英日通訳を何度もやっていただきました。

当日は、五十数名の大学生が参加されました。出身地は、北米、南米、中国、ロシア、イギリス、韓国、日本（日本生まれだが海外で教育を受けた方を含む）などで、ユダヤ教、キリスト教、仏教を始め様々な宗教を信仰し、人種も国籍も宗教も実に多彩でした。

皆、スワミーの一語一句に真剣に耳を傾けていました。質疑応答で興味深い質問がいくつか出ましたが、中でも、アフリカ系アメリカ人の女子学生の質問は特に関心を引くものでした。本物のヒンドゥー教

僧侶の話を直接聞く機会はなかなかないので、学生の皆さんにとって非常に貴重な時間となりました。スワミーの講話の内容は大変シンプルでしたが、真実の響きがありました。

講話の終わりにスワミーは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダについて書かれた印刷物とお菓子を参加者に配りました。講話は大成功を収めました。

**発行：日本ヴェーダータ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)